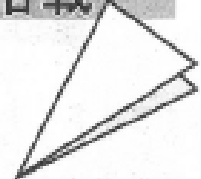


2015年11月13日
神奈川新聞

ロボット、医療機器、ロケット搭載…

宇宙産業やファッション、自動車部品など多方面で活用されている「折紙工学」を紹介する企画展が、明治大生田図書館(川崎市多摩区東三田)で開催されている。世界初の折り紙ロボットや、3次元プリンターを活用した折り紙立体物など最先端の研究結果を披露している。29日まで。(進山 麻美)



折り紙技術 最前線

日本で古くから折じまれている折り紙には、小さく畳めて収納が持ち運びなどに便利な展開伸縮性や、折ることで強度が高められるといった特性がある。宇宙分野では大きなソーラーパネルなどをロケットに搭載する際、スムーズに広げられる折り畳み方を取り入れている。企画展を主催した同大先端数理科学インスティテュート(M-IIS)では、そうした折り紙技術の産業化に向けた研究を行っている。

明大図書館で 産業化研究を紹介 29日まで



折紙が3次元プリンターで再現した立体物など、最先端の研究結果を紹介している企画展。

企画展では、耳直筒像などからの展開図を作成する「折紙3次元プリンター」で再現した、人の顔やぬいぐるみなどの立体物を展示している。M-IIS所長で、同大研究・知財戦略機構の萩原一徳特任教授(印)によると、昔から折紙の技術を積み上げる展開図のDプリンターに比べ、印刷した展開図を折って再現する折り紙式は費用が抑えられる。短時間での再現も可能とい

う。「家庭にもある印刷用紙で、大きなものでも早く再現できる。色も白く正確な色で再現できる」とが得意。実験などで折紙に紙の生地の向きを「折り紙の向き」を区別して折る展開図と、折ったものをのり付けする技術の両方で開発中だ。萩原特任教授は「折り紙の形は複雑で、作るのが難しい。機械生産が可能になれば産業化につながる」と話す。

「きらびやか」

「次川崎駅東口の複合商業施設「キラ」のオープニングイベント

田大シャンデリアが浮かび上がったクリスマスイルミネーションラ チッタッタ

などの医療機器で活用できる展開可能な筒、洋風などで幅広い分野での応用事例を紹介している。「折り紙は日本の伝統技術だが、産業化に通じる導く世代の折り紙技術を知ってもらえれば」と会場には折り紙帽子が作れるコーナーもある。入場無料。問い合わせは、同大M-IIS事務室(03(5342)5004)。



> 176 <

おいしい料理や、うまい日本酒、大人の贈り家のような和風居酒屋がある。「世界中の様々な料理にも合わせたい」と始まるのが日本酒好きの集まり。食生活の日本酒を大切にする「和酒好き」は、和酒好きの集まり。和酒好きの集まり。和酒好きの集まり。

和み酒房げん

店長 松枝 幸司さん(42)



努力すれば結果は出る

松枝さん、有名レストランでホールの手伝いを任される。また、和酒のバーでは、計数管理(コスト削減)による利益計画などの経営も担当していた。

「この川崎で、和風居酒屋で日本酒を飲める店を新たにしたい」と考えている。今日も大人の贈り家に日本酒好きが集まる。

「日本酒を愛する人」

和み酒房げん(川崎区東田町8)ハレルラ路、電話044(220)7533。2008年創業。従業員4人。

川崎区東田町8番地 和み酒房げん 三田 弘典